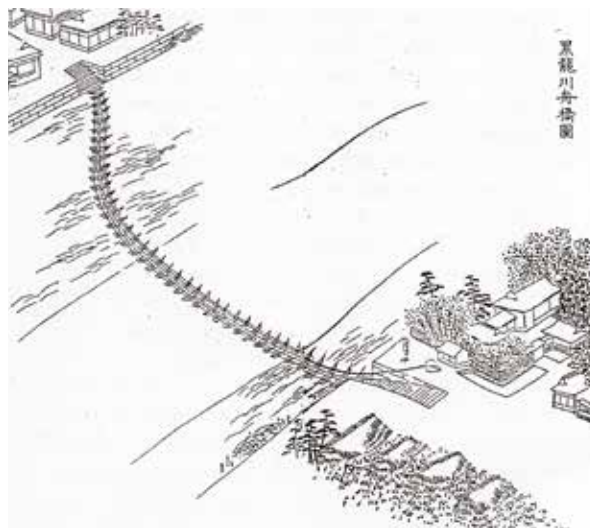


中藤島地区の誇り

九頭竜川に育まれた中藤島地区

天正6年(1578年)、柴田勝家が越前の国浦々から48艘の舟を徴収して藤蔓や鎖でつなぎ、板をひいて架設したもので、天下の三舟橋の1つとして名所と謳われるようになり村の名前も舟橋と改名。これが、北の庄の城を守る北方唯一の要害関門となり、橋奉行(四王天但馬守)を置いて徳川幕府末期まで管理に当たらせ、明治19年(1886年)木造の橋が架けられるまでの約300年間使われた。九頭竜川の両岸には、舟橋史跡碑や48艘記念碑、四王天但馬守家事蹟碑が建立されている。平成14年には48艘の模型作製、平成15年には「舟橋」の再現を行った。



黒龍神社(舟橋)の左義長は、北陸最大級の大きさの左義長で(高さ12m、直径7m)疫病消除、無病息災、五穀豊穡を祈って行く。この火まつりは、特に九頭竜川の龍神の精の鎮魂を神に祈る庶民の素朴な行事である。地区内には、他にも12基の左義長が建っている。

高柳遺跡は、福井都市計画事業市場周辺土地区画整理事業に伴って発掘され、高木町、高柳町、大和田町、寺前町一帯に広がる縄文時代晩期から中世にかけての複合遺跡である。広さは約1平方キロメートル。女性をかたどった縄文時代の顔型土偶や、奈良時代から平安時代の有力豪族の姓と考えられる「生江」の墨文字が書かれた須恵器、住居跡などが出土され、九頭竜川流域における暮らしの様子の変遷がみられる。(高柳遺跡より出土)



中藤島公民館 館長 服部 邦雄さん

平成23年から現職。元教師。そのキャリアを活かし、青少年教育や子育て支援事業などに関わる。「九頭竜川は中藤島地区の宝」で大切にしたいとの思いから九頭竜川クリーン作戦や歴史の学習に力を入れている。

中藤島公民館

住 所／福井市高木北2-1001
電 話／0776-54-0045
交通機関／京福バス「中藤島公民館」
バス停下車